

**6人に1人と、深刻さを増す「子どもの貧困」
ひとり親世帯では実に2人に1人が貧困**

国民の平均的な所得の半分を「貧困ライン」といいます。平成24年の厚労省の調査で、16.3%、つまり6世帯に1つの子育て家庭が貧困の状態にあるという結果が。とりわけ深刻なのは「ひとり親世帯」で、その貧困率は54.6%と半数を超えています。

生活の厳しさは、生活保護の受給世帯数を見ても明らかです。平成19年度の3,713世帯にたいして、平成28年には7,014世帯と大きく増加しています。このことは、経済状況の悪化で平均所得が下がったというだけでなく、働く場がない、また働いても収入が増えないという、いわゆる“格差”が広がっていることを示しています。さらに、現代の貧困問題を考えるときに難しいのは、パッと見て「この家庭・この子は貧困に苦しんでいる」と判断しにくいという点です。人知れず貧困に苦しむ子どもは、私たちの想像以上にたくさんいるのです。



**貧困の連鎖(れんさ)から子ども達を守れ！
あらゆる手立てで経済・教育・就労の支援を**

貧困家庭に育ち、十分な教育や体験、周囲からの愛情などを受けることができなかった子どもは、成長して大人になった時、同じように貧困に苦しみ続けてしまうというデータがあります。これを「貧困の連鎖」といいますが、この連鎖から子どもたちを救い出すことがとても重要です。松戸市では「子ども未来応援検討チーム」が発足。みのわ信矢は、このプロジェクトをはじめ、子どもに関する全ての担当各課に、生活保護をはじめとするあらゆる手立てを駆使して、子どもたちとその家庭を救済するよう求めています。その内容は、来る12月議会で一般質問する予定です。



12月議会が行われます
 松戸市議会12月定例会が、6日から22日までの会期17日間で行われます。みのわ信矢は、所属する教育環境常任委員会での議案審査をはじめ、本文記事でも触れた子どもの貧困や、教育に関する市の取り組みについて一般質問を行うため登壇する予定です。ぜひ皆さん傍聴においでください！



HPもご覧ください！ **みのわ信矢** **検索**
連絡先 松戸市金ヶ作418-94



みのわ 信矢
プロフィール

- 昭和42年 松戸市常盤平生まれ
- 昭和55年 松戸市立常盤平第一小学校 卒業
- 昭和58年 青山学院 中等部 卒業
- 昭和61年 青山学院 高等部 卒業
- 最終学歴 青山学院大学 経営学部 卒業

市議会議員としての主な経歴

- 松戸市予算審査特別委員会副委員長
- 松戸市決算審査特別委員会副委員長
- 松戸市立病院建設検討特別委員
- 教育経済常任委員長
- 都市整備常任委員長

その他の経歴

- ◇中央学院大学 法学部講師(地方自治論)
- ◇介護事業所 取締役
- ◇NPO法人地域政策研究所 理事
- ◇公益社団法人 松戸青年会議所 常任理事
- ◇松戸市子ども会常盤平地区 会長 など

趣味

- ◆楽器演奏(エレキギター)、読書、映画鑑賞
- ◆学生時代はバスケットボール部